

大東亜戦争が原爆投下で終戦になり、経済も復興期に入り世の中が落ち着き始めた昭和の時代でした。私は短大を卒業してすぐに、主人の文太郎とお見合いをして結婚しました。それから四年が経ちますが、妊娠の期待は未だに外されています。

主人に言われて婦人科医の診察を受け、排卵日の予測のための基礎体温を測るように言われました。主人は女の体温が排卵に関係のあることを知り、お前の体温を俺が管理すると言い出しました。そして紀子は毎朝寝起き時に肛門で検温されることになったのです。

肛門での検温は、以前私が便秘で熱を出した時、主人にお尻で熱を計られ、お浣腸された時から習慣になったのです。

朝目を覚ますと、私は自分でパジャマのパンツを下ろし枕に頭をつけパンティを下げてお尻を高くします。そのままの態勢でガラスの体温計の挿入を待つのです。

主人は上を向いて露になった寝起きの肛門をベビーオイルを付けた綿棒で刺激したあと、体温計をスーッと挿入します。

体温計の挿入時の感覚が堪らない恥ずかしさで、私はそれだけでお股を濡らしてしまいます。

主人はそのお湿りを見ると肛門の体温計を押さえたまま、検温の時間が来るまで私の花びらを指で悪戯を始めるのです。

主人はベッドサイドの時計を見て、体温計を抜いて数値を記録し、そのまま排便前の私の肛門に指を入れて、お便秘の検査をします。

主人の太い人差し指を入れられると、ビクツとして「ああ、あなた！」恥ずかしさに声が出てしまいます。

検査でお便秘があると、その場でイチジク浣腸を注腸されますが、その時の自分の姿を想像すると、羞恥心で一杯になり、またお股を濡らすことになります。

お便秘が重い時はお浣腸を二度されます。注腸が終わると肛門を押さえられ、お浣腸の効果が出るまで待たされます。

お腹の音がゴロゴロ鳴るまで我慢させられ、主人はその間、私の頭を撫でお腹を摩つて優しく見守ってくれます。それは私を安心させ、主人の愛を感じる私の大好きな時間なのです。

お生理の時など主人にお股を見られるのが嫌で検温を嫌がると、お尻を掴まれてお仕置きされてしまいました。

それは本当に恥ずかしくて、顔から火が出るような思いをします。

なぜなら、お仕置きのために主人の膝の上にお尻を乗せられて、お生理のパンツを下ろされて、血で汚れたパッドを見られると思うと、女の秘密を主人に見られるようで、恥ずかしさに身が縮む思いをするからです。

お尻を叩かれ泣かされた後、紅く腫れたお尻を開けられイチジクのお浣腸をされて立たされるのです。

火照ったお尻を振つて許しを乞い、朝の排便を済ませてお生理のパッドを付け直します。

その時には何故かお生理の憂鬱がなくなっていることに気づきました。お生理の最中のお仕置きとお浣腸で、女の全てを見られた被虐的な安心感、それがそうさせるのでしょうか？

このお生理時のお仕置きとお浣腸の事を思い返すと、身体が熱く火照つて、私は早く主人の子供を授かりたいと心から思うのです。

その後、私は、基礎体温表の排卵日の予測に従って、毎日の様に主人に抱かれ、首尾よく妊娠する事ができました。

その時の主人の性交の好みは正常位で、私の両脚を抱え上げて組み敷き、私の表情を見ながら腰を打ちつけてきます。

主人の睾丸がヒタヒタと私の肛門を打ち刺激します。

私はお股をいっぱいに開いてそれを迎えて無我夢中で鳴き続け、主人の合図で同時に絶頂を迎えたのです。

私はその余韻の中で、“あつ！妊娠した！”と確信した事を思い出します。